

# 2022

## INTERIM BUSINESS REPORT

# 第20期 中間事業概況

2021年4月1日～2021年9月30日

### トップメッセージ



代表取締役会長兼社長・CEO 水島 徹

### ご挨拶

株主の皆様には、格別のご配慮とご支援を賜り誠にありがとうございます。まず始めに、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により亡くなられた方々及びご家族・関係者の皆様にご挨拶を兼ねてお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々の一日も早い回復を心よりお祈りいたします。当社も医薬品開発を通して新型コロナウイルス問題の克服のために努力するとともに、感染防止にも鋭意協力しております。

さて、当社は、世界の人々の健康に貢献する医薬品の上市を目指し、研究開発に取り組んでおります。特に、スマート創薬（早く安く確実に安全な医薬品を患者様に届ける）を実践するため、ドラッグデリバリーシステム（DDS）とドラッグ・リポジショニング（DR）をコア技術として日夜医薬品開発に努めております。

当社は、以下に示す3点を大きな目標に活動を続けております。

- I. 株主様の声に真摯に耳を傾け、経営に反映させる。
- II. ①既存パイプラインの2024年度までの上市、②湘南研究所による新規パイプラインの創成と2029年度までの上市、③北京泰徳製薬股份有限公司（以下、北京泰徳製薬と称します）、及びその親会社であるシノバイオファーマシューティカルリミテッド（以下、シノバイオと称します）とのより強固な連携とそれによる既存ビジネスの活性化や新しいビジネスの創成、④お互いの強みを活かした他社との協業、以上4点により、2029年度までに営業利益の黒字化（北京泰徳製薬の配当金なしでも黒字）を目指す。
- III. 既存株主救済のため、再上場などによる株式流動化を目指す。

以上を大きな目標として取り組んだ結果、この半年間（2021年4月～9月）で次に述べる多くの成果や学びを得ました。

## 当社の取り組み

- (1) 株主様との対話及び情報開示につきましては、ニュースリリース（IR）の充実に努めるとともに、頂いたご意見に対して真摯に対応しました。例えば、株主様より「株主名簿の住所変更が行われていないために招集通知書等が届かない株主が増えているのは問題である」とのご指摘を受けて、「住所変更のお願い」をリリースするなど対応しました。
- (2) 研究開発活動では、PC-SOD（LT-1001）に関して、CIPN（化学療法誘発性末梢神経障害）を対象とする臨床試験の治験届を本年9月に提出しました。CIPNは抗がん剤による副作用の一種であり、臨床現場で大きな問題になっております。そのため、この臨床試験に対して、多くの臨床医から高い期待が寄せられております。また当社のDR技術を活かし、筑波大学医学部との共同研究で発見した新型コロナウイルス感染症治療薬（LT-4012）に関しては、動物実験でその有効性を確認することに成功しました。さらに、ノーベルファーマ株式会社との共同研究開発（LT-5001）において、後期第二相臨床試験結果を解析したところ、一つの臨床試験において統計的有意差を持って有効性を確認することができたことから、同社と次の臨床試験に向けた準備を開始しました。
- (3) 上述のCIPNの臨床試験は、既に契約を締結している国内製薬企業と共同で行います。この臨床試験で有効性と安全性が確認できたら、上市への道筋が見えて参ります。一方、あすか製薬株式会社からDRに関するコンサルティングを受注し実施したところ、高い評価を頂くことができました。さらに、前事業年度でDDS製剤開発を受託した国内大手製薬企業から、新たなDDS製剤開発に関する相談を受けました。このように当社は、売上の向上と製薬企業との信頼関係の構築を目指し、製薬企業との協業を進めております。
- (4) 北京泰徳製薬とは引き続き、資本業務提携や包括支援契約に基づく共同事業を継続しております。尚、中国における薬価の引き下げ政策等により、2020年の同社の決算は、厳しいものとなりました。しかしながら、当社を含めた北京泰徳製薬の株主の意向もあり、前年同期よりは減少したものの、同社からの配当金として395百万円を受け取ることができました。また、北京泰徳製薬の売上や利益を短期的に回復させるためには、日本企業が中国で売っている医薬品の販売権を得たり、販売協力を行ったりするのが効果的であると考え、その候補医薬品リストを全社をあげて作成し、同社へ提案しました。さらに、当社の人脈を活かして、日本の大手製薬企業を同社に紹介し、販売協力などに関して交渉を進めました。
- (5) 前事業年度において、当社の技術・人材・パイプラインを評価したシノバイオが、当社との資本業務提携を目的とした公開買付けを実施し、シノバイオと当社は資本業務提携基本契約書を締結しました。そしてこの半年間では、人的交流、事業開発体制の整備、及び当社パイプラインの紹介などを行いました。また、シノバイオからの要望を受け、当社の人脈を活かし、日本の大手製薬企業（2社）とシノバイオとの提携に向けた協議を主導して進めました。シノバイオによる公開買付けや資本業務提携は、業界に大きなインパクトを与えました。例えば、日経バイオテックでは、2021年6月25日に、「LTTバイオの水島氏が語る。中国Sino Biopharmaceutical社との業務提携の狙い」と題した記事が掲載されました。その結果、中国事業に興味を持つ多くの企業が当社にコンタクトしてきています。当社としましては、シノバイオとの業務提携により研究開発の加速や収益の多角化を達成し、再上場への礎にしたいと考えております。
- (6) 再上場に関しては、シノバイオとの資本業務提携発表後、これを評価した複数の証券会社からアプローチがあり、その内1社（上場主幹事証券の経験を持つ証券会社）と、再上場へ向けたコンサルティング契約を締結しました。その後、当該証券会社とは定期的に協議をしております。具体的には、当社の状況をご理解頂くとともに、過去の事例の調査（上場廃止から再上場に成功した事例など）もお願いしております。今後も、再上場へのロードマップの作成を目標に活動を継続して参ります。当社としましては、当該証券会社からの助言と、シノバイオや北京泰徳製薬の協力も得て、一日も早い再上場を達成したいと考えております。

当社は引き続き、医薬品上市、会社価値の向上、及び株主利益の増大を目指し鋭意努力して参りますので、今後とも株主の皆様のご理解、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

## 業績及び財務状況等

(単位：千円)

科 目	第19期中間期 (2020年4月1日から 2020年9月30日まで)	第20期中間期 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)	前年同期比増減 (%)
売 上 高	1,000	2,800	180.0
売 上 総 利 益	1,000	2,800	180.0
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	369,138	292,672	△ 20.7
研 究 開 発 費	213,597	182,862	△ 14.3
そ の 他	155,540	109,810	△ 29.4
営 業 利 益	△ 368,138	△ 289,872	—
営 業 外 損 益	894,666	393,836	△ 55.9
経 常 利 益	526,528	103,963	△ 80.2
特 別 損 失	1,419	1,349	△ 4.9
法人税、住民税及び事業税	87,851	39,846	△ 54.6
中 間 純 利 益	437,256	62,767	△ 85.6

**Point**

●売上高

北京泰徳製薬との包括的支援契約に基づく報酬及びあすか製薬からのコンサルティング収入等

**Point**

●販売費及び一般管理費

支払報酬の減少等による  
その他販売管理費の縮小

**Point**

●営業外損益、経常利益

北京泰徳製薬からの受取  
配当金減額による減少

(単位：千円)

科 目	第19期通期 (2021年3月末)	第20期中間期 (2021年9月末)
流 動 資 産	3,005,284	3,275,523
現 金 及 び 預 金	2,654,552	2,752,773
有 価 証 券	300,000	500,000
そ の 他	50,732	22,750
固 定 資 産	1,268,240	1,069,289
投 資 そ の 他 の 資 産	1,268,240	1,069,289
資 産 合 計	4,273,525	4,344,812
流 動 負 債	55,498	67,098
未 払 金	54,299	64,174
未 払 法 人 税 等	643	353
そ の 他	556	2,571
固 定 負 債	26,835	23,069
負 債 合 計	82,334	90,168
株 主 資 本	4,185,971	4,248,738
評 価 ・ 換 算 差 額 等	5,218	5,904
純 資 産 合 計	4,191,190	4,254,643
負 債 ・ 純 資 産 合 計	4,273,525	4,344,812


**Point**

●純資産合計

中間純利益の計上による  
増加

## 第20期（2022年3月期）通期業績見通し

売上高は北京泰徳製薬との包括的支援契約の継続による報酬及びあすか製薬からのコンサルティング収入等により24百万円前後を見込んでおります。

販売費及び一般管理費は、PC-SOD（LT-1001）のCIPN（化学療法誘発性末梢神経障害）を対象とする試験費用などにより722百万円前後を予定しており、営業損失は698百万円程度となる見込みです。

営業外収益で北京泰徳製薬からの受取配当金が前事業年度と比較して大きく減少したため、営業外損益を差し引きした当期純損失は118百万円程度となる見込みです。

なお、当社の業績は研究開発の進捗や北京泰徳製薬の配当政策などの不確定要素を多く含んでおりますので、大きく変動する場合があります。

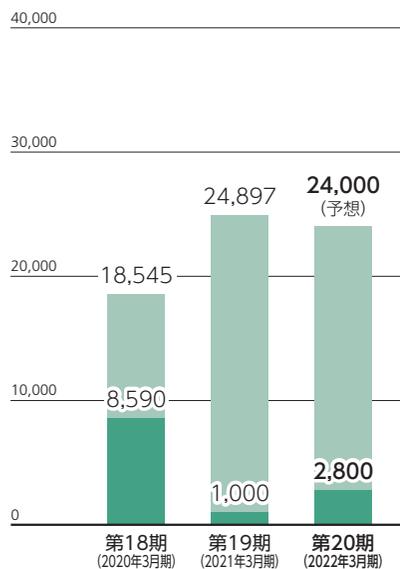
## 業績の概要

当社の当中間会計期間の売上高は、北京泰徳製薬との包括的支援契約に基づく報酬やあすか製薬からのコンサルティング収入等により2,800千円（前年同期比180.0%増）となりました。販売費及び一般管理費の研究開発費は、PC-SOD（LT-1001）のCIPN（化学療法誘発性末梢神経障害）を対象とする試験費用の発生等により182,862千円（前年同期比14.3%減）、販売費及び一般管理費のその他は支払報酬の減少等により109,810千円（前年同期比29.4%減）となったため、営業損失は289,872千円（前年同期は368,138千円の営業損失）となりました。また、中国での新型コロナウイルス感染症の影響等による北京泰徳製薬の配当減のため、受取配当金が395,562千円であったことから、経常利益は103,963千円（前年同期比80.2%減）、中間純利益は62,767千円（前年同期比85.6%減）となりました。

### 決算ハイライト

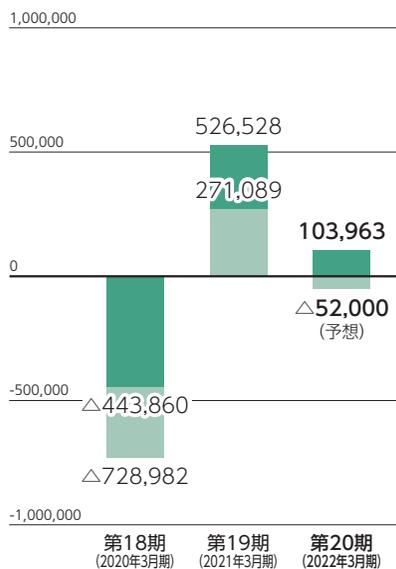
#### 売上高

単位：千円



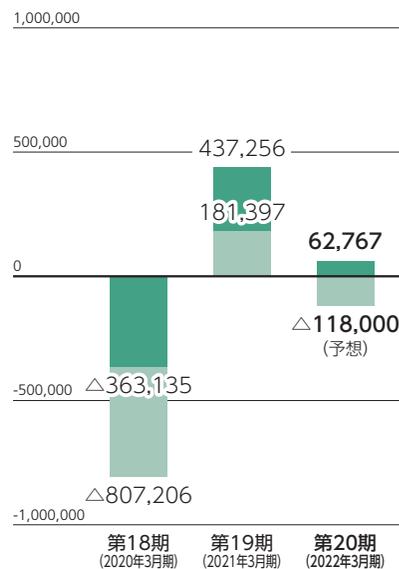
#### 経常利益

単位：千円



#### 当期純利益

半期 通期  
単位：千円



## 会社情報 (2021年9月30日現在)

### 【大株主の状況】

株主名	持株数	持株比率
北京泰德制药股份有限公司	25,320株	19.20%
一般財団法人水島記念財団	23,375	17.72
SINO BIOPHARMACEUTICAL LIMITED.	22,587	17.12
細羽 強	4,534	3.43
秋元 利規	4,200	3.18
吉野 友裕	3,515	2.66
遠藤 賢一	2,651	2.01
佐藤 智之	2,204	1.67
鶴見 達也	1,670	1.26
佐野 幸司	1,590	1.20

### 【会社概要】

名称	株式会社LTTバイオフーマ		
所在地	〒105-0022 東京都港区海岸一丁目2番20号汐留ビルディング3階 TEL：03-5733-7391 FAX：03-5733-7397		
設立	2003(平成15)年1月 前身は1988(昭和63)年4月設立の(株)エルティーティー研究所		
資本金	1億円		
役員	代表取締役会長兼社長・CEO	水島 徹	謝 炳
	取締役副会長	大谷 培夫	福田 耕一郎
	取締役 (湘南研究所長)	丹治 勇人	武永 美津子
	取締役	鄭 翔玲	趙 焰平
	取締役	侯 博峰	

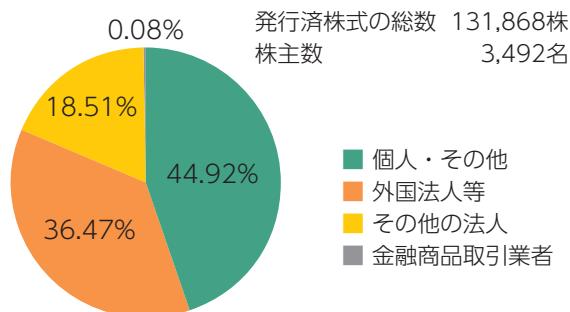
### パートナーシップ

資本・業務提携	北京泰德制药股份有限公司 中国生物制药有限公司
研究委託先	日本大学 就実大学 武蔵野大学 東京大学 静岡県立大学 大阪大学 北海道大学 等



北京泰德制药本社(中国北京市)

### 【所有者別分布】



### 【株主メモ】

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	株式会社アイ・アールジャパン
同連絡先	〒100-6026 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 株式会社アイ・アールジャパン 証券代行業務部 <お問合せ> 0120-975-960 9:00~17:00 (平日)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.ltt.co.jp">http://www.ltt.co.jp</a> ※ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。